

第 1 回 胎内市総合計画策定審議会 議事要旨

1. 日時

平成 27 年 7 月 9 日（金）19：00～21：00

2. 場所

胎内市役所 大会議室

3. 出席者

【胎内市総合計画策定審議会委員】

中野友美委員、坂上タキ江委員、高橋三樹男委員、中原拓也委員、関谷浩史委員、高橋賢一委員、安城守英委員、威本悠希委員、久世秋絵委員

【事務局】

副市長、総合政策課長、総合政策課企画政策係長、係員、計画策定支援事業者

4. 議事内容

事務局より資料に沿って説明を行った後、課題や現在の取組、施策の今後の方向性について各委員から発言。主な発言内容は下記のとおり。

○新発田市が新潟のベッドタウンになっているように、胎内市ももう少しアクセスを良くして新潟との時間を縮めるような方策を取れば勤め人が住み着き、その家族の分も人口が増えるということになるのではないか。新発田と比べれば土地は安いので、雇用の場というよりは、まず住み着いてもらうということを考えれば良いのではないか。

○まずは安定した雇用が大事。日本海東北自動車道のインターが近く交通アクセスが優れているにも関わらず工業団地が空いているので、まとまった規模の雇用を生む新しい企業の誘致を進める必要があるのではないか。また、いいまちなのに住宅用地の造成等の分譲案件が少ないという印象を持っている。地域の事業者が進めるのか、行政も関わるのか分からないが、もっと宅地造成を進めて戸建て住宅等を増やすようなことを考えても良いのではないか。

○私も安定した雇用の確保が第一だと思う。連合胎内では加盟する労組に市政に対するアンケートをとっているが、その中ではこうした意見がとても多い。工業団地ができてずいぶん年数が経っているのになかなか企業誘致が進んでいない。働く場所がないから入ってくる人が少なく、進学で県外に出た子ども達がUターンする受け皿がない。そういう問題が大きいと思われる。その一方で、このご時世では企業側も地方進出が厳しいかもしれないと考えると、新発田や村上といった近隣市町村に就業・通勤しやすい環境、あるいは通勤に時間を費やしても胎内市に住むだけの価値、魅力が感じられるようなまちづくりが必要かもしれない。

○私も一番大事なのは雇用、企業誘致だと思う。しっかりした仕事があって、仕事に見合った給料がもらえることが結婚・出産・子育てにつながっていくからである。

出産については、同居している嫁は「お産ができないのが不便」と言っている。子育て支援については、子どもが育てやすい場所ということで聖籠町に若い人が流れている現状がある。子どもを産む場所にも事欠き、支援も他市町村の方が良いとなれば育てやすいところに行ってしまう。あと、胎内市に魅力があれば良いのだが、魅力といたら漠然と頭に浮かぶのは景観だろうか。子どもの時から胎内市が良いところだということを、どんどん教育の場で伝

えていくことが必要だと思う。

- 雇用の場はもちろん大切だが、周りに宅地がないために新発田市、聖籠町に移るという話を聞く。また、先ほど話があったとおり市内には産科がない。村上にも病院はあるが30分はかかるので、新発田市に行くことになる。中には救急車で病院に行ったという人もいるので、出産する女性の立場としては近いところに産科や病院があると助かる。
産んだ後については、「年度の途中で保育園に入れたいけれどダメだった」という話を聞いたことがある。市内の保育園は4月1日時点では待機児童ゼロだそうだが、年度の途中からでも希望する保育園に入れるようになれば、仕事復帰がしやすく、出生率を高めることにつながるのではないかな。
- 結婚問題については、会社に意外と独身の20代、30代の男女がいるので重要だと思う。出会いの場がないというのが1つの要因になっているのではないかな。市も新たに出会いの場をつくるという施策を頑張っているそうだが、会社で話題になったことがないので、周知がされていないような気がする。
- 私もやはり雇用が大事だと思う。ただ、工場誘致と言うのは簡単だが、つながりのある企業の近くで操業することに意味があるので、1社にだけ「土地の安い胎内市に来てください」と言っても「うちをつぶす気か」と言われてしまう。大メーカーが来るような工場進出だったら良いが、それもなかなか難しい。それならば、今ある企業に対して行政が「地元から出た子どもを優先的に雇用してください」とお願いする方が、お金もかからず、簡単で、一番早く成果が出るのではないかな。
- 「仕事がない」というのはもちろん大きな課題だが、企業誘致は「年に1社でも来れば良い方」という相手あつての施策＝待ちの施策である。資料にある人口減少のグラフの“待ったなし”な状況を見ると、何か攻めの施策が必要ではないかという気がしている。
規模的にそう大きくない胎内市でできることは限られてくるのだが、やはり若い世代が住みやすい環境づくりをしていくのが一番ではないかな。また、「地元に戻って店を出したい」「会社を立ち上げたい」という人を支援する方策が必要ではないかな。大規模な企業誘致のように大幅な人口増加にはつながらなくても、まちの活気という点では重要な取組だと思う。
- 農協でもあちこちに研修に行っているが、聞くのは女性による活性化の成功例がほとんどで、「女性が元気なところはまちも元気」という話が多い気がする。ただ、話を聞いたからそれができるという訳ではなく、女性の頑張りということばかりが強調されているような気がするが、6次産業化、加工所や直売所で頑張る女性の例を参考にしながら自分たちの目線でもっと活性化できればいいなと思いながら取り組んでいるところである。
- 「子ども（孫）が放課後に家へ帰ってきたときに遊ぶ友達がいない」といった理由で子ども世代がどんどん人のいる方に移っている。それが胎内市の中に収まっていればいいのだが、市外に出て行くケースも多いようだ。若い親の世代は子ども中心に動いているということを認識し、このニーズをつかまないといけない。それから、私達は平成生まれで景気のいい時代を知らない。「お金がないお金がない」と聞いて育っているので、お金がないことに対する不安がすごく強い。そういう世代が今、親になろうとしているのだが、友達、年代と話をしても、「お金がない→将来が明るく見えない→そのために結婚が先延ばしになっている」という心理があるような気がする。
- 議論を聞いていると、魅力のある地域とは別に景色のことばかりではないかもしれない。例えば、保育料を無料にしないまでも、夜遅くまで預かるといった柔軟な対応をすることで魅

力アップにつながるのではないか。

- 私の経験で言えば、就職活動を始めた学生は、まず「新潟市内にはたくさん仕事があるだろう」と考えてその辺りで探すのだが、合同企業説明会に行っても胎内市の企業がないので胎内市でも募集があることに気付かない。雇用に関しては、まず「そこに仕事がある」ということを知らない人がほとんどだと思う。企業が個別に努力するのは大変だが、連携して一緒に説明会等を行うことで外から人を獲得することもできるのではないかと感じた。また、暮らしについては、とても安全で暮らしやすく、みな人がいい胎内市がとても好きである。鍵をかけていない家が多いとか、車のエンジンかけっぱなしでコンビニに入る人がいるとか、思いあたる人もいると思うのだが、そういう環境は子育てにも適しているはずである。
- 「人がいい」という話に関連して、東京は貧困率が高く、家賃が払えない、飢えて餓死してしまうということも起きているが、新潟ではまずそんな話は聞かない。これは生きていく上で大きな価値だと思うので、今後もそういうことを意識して取り組んでいくべきだと思う。